

解説(Editorial)

親愛なるギムノカリキウム愛好家 殿
31 回国際 Gymnocalycium の日 - Radebeul(Dresden、ドイツ)



Massimo Meregalli

9月4日(金曜日)から6日(日曜日)に、Radebeul で開催された Gymno の日は、また、非常に興味深く、友好的で、さらに科学的に重要な会議でした。この会合の主題はウルグアイの *Gymnocalycium* 種でした。

金曜日の夕方に、Volker Schädlich は、彼の 2015 年のボリビア旅行の写真を使った旅行談を示しました。話は最初に、我々をボリビアの Chaco に、そして、高いアンデス山脈に連れて行きました、そして、明らかに、前景が *Gymnocalycium* の風景とサボテンの極めて素晴らしい説明が見られました。

会合の科学的な部分は、土曜日の朝に Wolfgang Papsch により始められました。彼は、複雑な *G. hyptiacanthum* - *G. netrelianum* - *G. uruguayense* - *G. guerkeanum*、およびこれらの分類学種と関連する他の名前に属する植物を扱っているすべての文献を説明しました。Wolfgang の話は、私達に、信じられない混乱、およびこれらの植物の命名法において君臨する複雑さを認識することを可能にしました。—このケースでは、命名法的な混乱は、様々な個体群の解釈についての分類学の疑念さえも越えているようです。

Ludwig Bercht は、名前の解釈と同様に文献上の意見と共に、ウルグアイに定住する、すべての種に関する議論を継続しました。彼は、*G. artigas*、*G. melanocarpum* と *G. megalothelon* を含み、*G. schroederianum*、現在は *G. platense* 亜種 *schroederianum*、*G. hyptiacanthum*、とそれに関連する種、むしろ不可解な *G. rauschii* について、若干の感想についても論じました。

Massimo Meregalli は *G. hyptiacanthum* の新基準標本を議論し、新基準標本の場所と Lemaire、1839 による原記載の植物間の詳細な比較を試みました。彼は、たとえそれが新基準標本としての南ウルグアイからの植物の選択が満足なものでなかったという大体の意見であるとしても、国際植物命名規約の原則に従えば、Kiesling によって示される新基準標本を拒絶することが、なぜほとんど不可能かについて説明しました。

昼食の後、M. Meregalli は、彼のコレクションからの植物の写真で、*G. hyptiacanthum* - *G. uruguayense* 複合体のいろいろな個体群についての知識への寄与を追加しました。Meregalli によって特定されるグループは、Bercht によって提案されたものにほとんど一致していました。

彼はまた、しばしば、2つの異なる形態の範囲に限り、個体群のほとんど、または完全に、同所性が見られ、そこでは、それぞれ 1 つまたは 2 つの異なる形態が存在し得ることを示しました。

Christian Hefti は、栽培だけでなく、生息地での植物の写真を示して議論に加わりました。彼は、陵の数、刺の長さや本数などのような、いくつかの形態学的な詳細な分析を追加しました、そして彼は、これらの特徴を、植物が生息する高度、または南北の分布と比較しようとしていました。調査された豊富な材料に基づいて、ウルグアイの中心と北西の地域において、すべての個体群が、非常により強い刺とより少ない陵で、非常に典型的形態を持つことは、明白に見えます。花はウルグアイの中央では黄色です、そして、北の分布域でピンク色、または白っぽい色です。時折、黄色がかった花の植物は、後のいくつかの個体群の中に存在します、しかるに、中部ウルグアイからの白い花を持つ1本の植物だけが、現在知られています。このタイプは *G. uruguayense* に相当します。

ウルグアイ南部では、植物はいつも、より小さく、赤みがかった基部を持つか持たない、より細かい刺とより多くの陵を持ちます。そして常に黄色の花です。このタイプが、*G. hyptiacanthum* および *G. netrelianum* に相当します。東ウルグアイ、およびブラジルの南西 Rio Grande do Sul では、標本は常に黄色の花を持ち、その国の南東の地域からの植物とより密接に関係があるように見えます。

Ludwig Bercht と Massimo Meregalli は命名法の研究とこれらのウルグアイ植物の分類学を完了します、そして、その結果は、来年の *Schütziana* で発表されます。

Norbert Gerloff は、南東 Rio Grande do Sul とウルグアイ間の境界の Acegua 周辺からの非常に興味深い、極めて隔離された個体群についての若干の感想を加えました。そしてそれは、*G. uruguayense* と *G. denudatum* の中間の特徴を示します。

最後に、Jaroslav Prochazka は、彼の 1999 年のウルグアイへの旅行を、多くのサボテンの個体群だけでなく、色々なウルグアイの生活、および都市の様相をも特色とし、生息地のいくつかのスライドで説明しました。

会合のテーマの議論を終えた後に、私達は Volker Schädlich による *G. megatae* の極めて正確なプレゼンテーションによる、パラグアイとボリビアの Chaco へと戻りました。すべての名前、同義語、文献が、信じられないほど多くの個体群の植物の生息地写真で議論されました。Volker は、確実に現在、この種の最も素晴らしい知識を持ちます、彼は新しい分類学的アプローチを提案し、私達は、近い将来、このジャーナルの読者に提出することを希望します。

Franz Berger による短い寄稿は、私たちに、珍しい *G. angelae* の写真を示しました。このきわめて絶滅に瀕している種は、今それが生息している、大牧場の所有者の注意と知恵により、その非常に小さな生息地で効率的に保護されているようです。彼は、誰でも自然から、どんな植物をも集めることを許しません。

Norbert Gerloff は、彼が何人かのブラジルのコレクターと一緒に見つけた *G. horstii* の個体群を特に強調して、彼の 25 年間の Rio Grande do Sul への旅行の発表でその日を終わりました。

日曜の朝、Gymno の日は、Horst Kallenowsky の長い旅行中に、アルゼンチン中部で見つかった *Gymnocalycium*、および他のサボテンと植物の発表に統合されました。

会議は、Gymno グループのすべてのメンバー、および参加者に対して大成功でした。すべての発表は非常に刺激的で、率直な議論で活気づけました。他の人の寄稿の発表により、自身の意見を再考する準備ができていて誰とでも、我々全員の最大限の対話のおかげで、科学的な部分は、私たちが多くの新しい知識を獲得すること可能にしました。

そして、いつものように、我々全員が共有する素晴らしい友情で、すべてがごちゃ混ぜになった、おいしい食物、おいしいビールとワインで、何故駄目でしょう。



Radebeul での Gymno-会合、写真：Ludwig Bercht

我々は、Iris Blanz (Fernitz, Austria)女史、Brian Bates (Bolivia)氏と英語への翻訳をサポートしている、Graham Charles (United Kingdom)氏、日本語への翻訳では、Takashi Shimada 氏、また、我々の出版物のミラーサイト(<http://www.cactuspro.com/biblio/>)の Daniel Schweich (France)氏に、心から感謝の意を表したいと思います。